

東京大学 文書館ニュース

The University of Tokyo Archives Newsletter

vol. 72, Mar. 2024

埋蔵物ニ関スル件

— 公文書に描かれた出土品 —



(左) S0003/42/0145 『官庁往復』 大正 15 年 「埋蔵物ニ関スル件」

(中) S0003/09/0048 『官庁往復』 明治 23 年 「岐阜県ヨリ美濃国土岐郡笠原村ニ於テ発掘シタル古器物絵図面添へ通報其他ノ件」

(右) S0003/42/0196 『官庁往復』 大正 15 年 「石器時代埋蔵物交付方交渉ノ件」

当館のデジタルアーカイブで「埋蔵物」「古器物」等のキーワードを用いて検索をすると、田畑、山林などから発掘された品に関する文書が多数見つかります。

その理由のひとつに、明治 32 年の遺失物法制定があります。法律制定後、石器時代の遺物は東京帝国大学において取り扱うこととなりました。大学が研究対象として要不要を判断するためでしょうか、埋蔵物関係の文書には、出土品をうつした絵が添えられているものがみられます（上掲画像）。

Contents

- 2 オーストラリア調査報告
千代田裕子
- 4 資料状態の把握と計画的な修復・デジタル化の取り組みに向けて
森本 祥子
秋山 淳子
- 6 業務日誌（抄）
（2023年8月～2024年1月）
- 7 資料の公開について
- 8 文書館トピックス
総長安全衛生パトロール（柏分館）
森本 祥子

開催中

健康と医学の博物館

「明治15年、^{コレラ}虎列刺大流行」
（～2024/7/31）



当館所蔵資料を使って医学に関するテーマで展示を行っています。ぜひお越しください。



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

オーストラリア調査報告

東京大学文書館 特任研究員 千代田裕子

1. はじめに

東京大学文書館（以下、当館）は、所蔵資料の編成記述の再整備にあたり、オーストラリアで使用されてきたアーカイブズ管理の考え方である「シリーズ・システム」の本格的な導入を目指して、2019年度より館内で「シリーズ・システム研究会」（以下、研究会）を一月に一度のペースで開催し、先行研究の読解や目録検索システムのあり方などの検討を続けた。

そして、研究会の活動の一貫として、シリーズ・システムがオーストラリアのアーカイブズ機関でどのように理解され、また、アーカイブズ管理システムの構築にいかんか反映されているのかという現状調査を目的として、森本祥子准教授、逢坂裕紀子特任研究員（現・国際大学グローバル・コミュニケーション・センター研究員）と筆者で、2023年2月11日～2月18日にオーストラリアの5つのアーカイブズ機関を訪問した。ここでは、オーストラリアにおけるシリーズ・システムの解釈と、アーカイブズ管理システムについて今回得た情報を書き留めておきたい。

2. 事前準備

2022年10月、調査対象とするアーカイブズ機関の選定にあたり、Adrian Cunningham氏（元オーストラリア国立公文書館、元クイーンズランド州立公文書館、国際アーカイブズ会議 EGAD - Expert Group on Archival Description 委員）に相談し、助言を受けた。その後、日程は1週間（調査は5日間）と決め、訪問先候補機関におけるアーカイブズ管理システムなどの特徴や所在地、組織の規模等を検討して絞り込みを行い、同年11月に5機関を最終的な候補とした。そして、候補機関すべてから承諾を得ることができた。

2023年2月に入るとすぐに、調査内容についてのアンケートを訪問先の5機関に送付し、文書での回答を依頼した。この回答をもとに、現地でのインタビュー調査にのぞんだ。

3. 調査日程

調査日程および訪問先は表1のとおり。

表1

日付	訪問先
2023/2/13	シドニー市公文書館 City of Sydney Archives
2023/2/14	クイーンズランド州立公文書館 Queensland State Archives
2023/2/15	オーストラリア国立公文書館 National Archives of Australia
2023/2/16	オーストラリア首都特別地域アーカイブズ Archives ACT, Territory Record Office
2023/2/17	ニューサウスウェールズ州立大学アーカイブズ University of New South Wales (UNSW) Archives, Sydney

4. シリーズ・システムの解釈について

シリーズ・システムは、主にアーカイブズ機関が所蔵する記録に対して、それらが作成・管理された組織等のコンテキストを記述するためにオーストラリアで開発された考え方である。アーカイブズ機関では、シリーズ・システムの考え方をベースに、記述要素（Entity）とそれらの関連性（Relationship）を記述し、アーカイブズを管理していく¹。今回の訪問を通じて、それらの記述要素は固定化された絶対的なものではなく、「アーカイブズ機関が、それぞれの管理方法に応じて開発・調整し、記述要素を設定することが可能」で、柔軟に運用されていることを確認できた。

一例として、クイーンズランド州立公文書館（以下、QSA）をあげてみよう。QSAでは、「Organization」や「Person」といったシリーズ・システムではおなじみの記述要素を除外し、「Function」（機能）、「Mandate」（権限）、「Representation」（表現）を独自に設定してコンテキストを記している。「Function」と「Mandate」を記述要素として導入することは、州政府機構の変更を追跡および分析するのに役立つと考えたからだという。「Representation」もたいへん興味深いものだった。従来、QSAでは複製としての電子ファイルやマイクロフィルムについては、それぞれ固有のモジュールを使って管理していたが、ボンデジタルの記録や紙と電子のハイブリッドな記録には対応できないことから限界を迎えていた。そこで、「Representation」要素をアイテムレベルの記述に導入し、物理的であれデジタルであれ、その個別の状態（電子ファイルならばファイル形式やサイズなどの情報）を記すことによって、一元的な管理が実現したという。また、利用者

とつても、検索結果から物理的かデジタルか希望の形での閲覧が可能になった。

5. アーカイブズ管理システムについて

本稿ではアーカイブズ管理システムを、「アーカイブズ機関が所蔵資料について、国際的なメタデータ標準 (ISAD-G, ISAAR (CPF) 等) ベースのアーカイブズ記述およびアクセスのために用いるシステム」とし、話を進めていきたい。今回の訪問先で使用していたシステムは、市販のものであったり、オープンソースのものであったりしたが、多くがクラウド・サービスを活用しているのが印象的であった。たとえば、シドニー市公文書館では「Recollect」というクラウド・ベースのコレクションマネジメントシステムを使用している²。利用可能な所蔵アイテムの半数近くはデジタル化されており、それらのデータもまた、シドニー市のクラウド・サーバーに保存されている。このシステムは、シリーズ・システムと国際的なメタデータ標準に対応しているが、シドニー市公文書館が独自に設定したメタデータも採用、追加しているという。ニューサウスウェールズ州立大学アーカイブズ (以下 UNSW アーカイブズ) では、「TRIM」と呼ばれる現用文書管理システムをアーカイブズ資料の記述やデータ保存にも応用している。UNSW アーカイブズも「Recollect」を導入しているものの、現用文書を管理する「TRIM」とはセキュリティ上の制約からシステム連携はしておらず、情報発信のインターフェイス利用にとどめている。

また、QSA は、シリーズ・システムをアーカイブズ管理システムに実装することを最優先の目的とし、アーキビストにより構築されたオープンソースのアーカイブズ管理用ソフトウェア「ArchivesSpace」を採用していた³。システムおよびデータはクラウド・サービスのサーバー上で、バックアップコピーは州政府のサーバーに保存しているとのことだった。首都特別地域アーカイブズは、クラウド環境で

オープンソースのソフトウェア「AtoM」を用いた独自システムを運用している⁴。首都特別地域アーカイブズは、「AtoM」を採用した主な理由として、オーストラリア国立大学や西オーストラリア州立アーカイブズなどで「AtoM」の先行導入事例があり、ユーザー・コミュニティが身近に成立していたこと、そして、シリーズ・システムへの適合がしやすいことを挙げていた。

6. おわりに

当館では、今年度より次世代のデジタルアーカイブ構築に向けて、資料記述と部署記述 (典拠レコード) などとの相関関係に関する勉強会を開催するなど、検討を進めている。こうした検討のなかで、今回の調査で得ることができたオーストラリアの現場の状況、すなわち「シリーズ・システムの柔軟な運用」や、「アーカイブズ管理システムの設計や運用の多様性」といった知見は、心強い支えとなっている。

また、アーカイブズ管理システムについては、同じシステムの開発者・運用者間の連携も大切な要素となることも再認識できた。当館も関係するコミュニティとの情報交換を行いながら、着実に整備していきたい。



QSA の外観

¹ 一般的なシリーズ・システムにおける、記録のコンテキスト情報の記述要素とそれらの関連性については、以下を参照されたい。

千代田裕子「新たな資料編成・記述方法の導入を目指して 第2部: シリーズ・システムにおける「function」概念の整理」『東京大学文書館紀要』第39号、2021年、11-12頁。

² 「Recollect」は、ニュージーランドに本拠を置く Recollect 社が提供する、コレクションに簡単にアクセスできるようにする包括的なクラウド・ベースのソフトウェアの名称。従前、市はアーカイブズの管理に13の異なるプラットフォームを使用していたが、「Recollect」に統合することで合理化を図った。

³ 「ArchivesSpace」とともに、利用者がQSA所蔵資料を検索するためのインターフェイスである「ArchivesSearch」およびクイーンズランド州政府職員がQSAが保有する記録を管理、アクセスするためのポータルサイト「ArchivesGateway」が稼働している。

⁴ 「AtoM」(Access to Memoryの略)は、2007年に国際アーカイブズ評議会(ICA)から資金提供を受け、カナダのArtefactual社が開発したアーカイブズ記述アプリケーション。

資料状態の把握と計画的な修復・デジタル化の取り組みに向けて

東京大学文書館 准教授 森本 祥子
東京大学文書館 助 教 秋山 淳子

1. はじめに

アーカイブズにとって、資料の保存と利用促進という相反する資料取り扱いの両立は、永遠の課題である。当館ではその中で、資料の劣化状態、利用頻度、情報の代替可能性の有無などを検討し、これまで資料の修復とデジタル化に取り組み、両立を模索している。本稿では、この取り組みのこれまでの成果と今後の計画について報告する。

2. 「坐右標準」の修復について

柏分館の所蔵資料では、もっとも古い年代域を含むシリーズのひとつ S0026 農学部前身組織関係資料の修復を実施した。当該シリーズは東京大学農学部の前身組織である農事修学場、駒場農学校、東京農林学校、農科大学などの組織が作成・収受した事務文書群である。農事修学場は1874（明治7）年設立であり、明治初期の農学教育のみならず、政府の勸業政策に関する貴重な記録となっている¹。

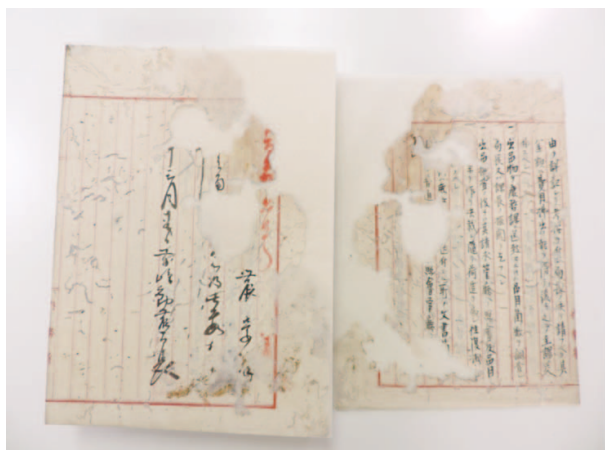


図1 修復前の「坐右標準」(上)と修復後(下)

これらの多くは和紙素材に墨書されたものであるが、過去の水損被害もあり、埃やカビによる汚れ、虫損、固着など著しい劣化がみられた(図1上)²。さらに目録公開後は利用提供に伴う劣化の進行も深刻であったため、資料群全体の修復を必要としていたが、まずは明治期の政策史的価値から利用頻度が高かったSSI総務関係資料から修復に着手した。そのうち「坐右標準」文書群(5点)は「此簿冊ハ本省御達ノ諸規則其外総テ模範トナルベキ一切ノ件ヲ纂集綴込ノ坐右ノ便ニ供ス」と作成目的が明記され、重要度が高いと判断、2021～2023年度に最優先でこれらの修復とデジタル化を行った。

今回の修復には高い専門的技術が必要であったため、紙資料修復工房代表の花谷敦子氏と補修方針を検討し、デジタル化を前提とした簡易的手法(丁の固着解体、破損の大きな部分のみ簡易補修、再綴をしない)を採用した(図1下)。続けて専門業者によるデジタル撮影を実施、原本は専用の中性紙保存箱に収納し、閲覧はデータ提供となったため利用による劣化問題が解消した。なお、簡易補修では比較的低コストでの処置が可能であり、補修対象の点数を増やすことができた。当該シリーズには多数の劣化資料があり、継続して修復を検討・実施する予定である。また、破断片や剥がれた付箋の位置特定・再貼付は実施せず、丁間に薄様紙で挟んで保管しているため、これらの散逸防止などが今後の課題である。

3. 「安西流馬医絵巻」の修復

2022年、農学生命科学研究科獣医学専攻獣医生理学教室から、農学部獣医学科の歴史に関わると思われる資料数点の寄贈を受けた。

このうちの1点は「安西流馬医絵巻」と通称される巻物であり、史料編纂所史料保存技術室の高島晶彦氏に確認いただいたところ、料紙から判断して16世紀のものだろうとのことであった。幸い中の彩色図は退色もなく鮮やかに残っていたものの、軸がないまま適当に巻かれた状態で、用紙は全体に茶色くなって柔軟性も失われており、とくに冒頭部分は劣化・欠損が目立った(図2)³。そのままでは文書館としては管理および取扱いが困難であったため、クリーニングはもとより、裏打ちのし直しを含む修復を施すこととし、高島氏の紹介により修復士の白井啓太氏に依頼した。

図3には、修復箇所を示した。このほかにも、

【修復前】



【修復後】

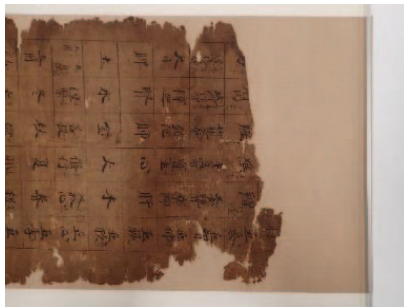
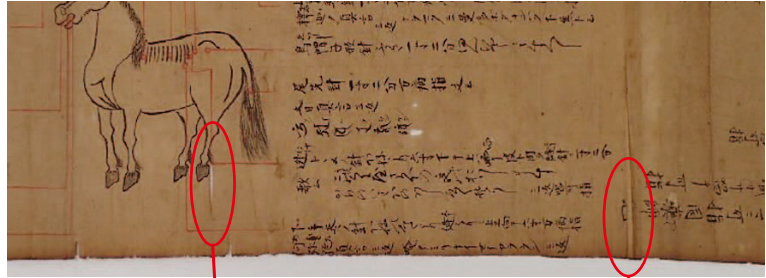


図2 「安西流馬医絵巻」冒頭箇所

【修復前】



欠損部の補填

墨字ズレの修復

【修復後】

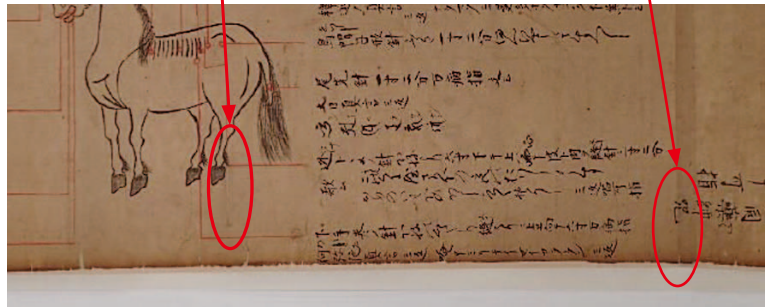


図3 「安西流馬医絵巻」補修箇所例

色止めのための保護や折れ・皺を伸ばすなどさまざまな修理を施した。前述の「坐右標準」に比べればより踏み込んだ修復であるが、本資料は残存数が極めて少なく貴重な資料であること、文書館員が日常的に取り扱える強度としたいこと、とはいえ原則として今後の利用はデジタル複製により原本の頻繁な取扱いはしない方針としたことから、白井氏と相談しながら「どこまで修復するか」を決めていった。その結果、例えば軸や表紙は資料に固定せずに添えるにとどめるといった判断をした。このように、個々の資料についての判断「結果」は異なるものの、館として今後どのような取扱いを想定しているかを見極め、そのために必要十分な修復を施すという考え方は一貫させているところである。

4. 特定歴史公文書等の悉皆劣化調査

これまでは前掲の事例のように、明らかに現状では資料が利用できない、あるいは利用のたびに傷むような状態のものを経験的にピンポイントで抽出して順次修復したり、デジタル化したりしてきた。利用ニーズを基準とすることは必ずしも外的外れではないが、所蔵資料全体をみたときに、真にバランスの取れた判断や優先順位付与ができていたとは言い難い。まずは所蔵資料全体について劣化状態を把握し、その上でそれを踏まえた長期保存修復計画を立てる必要があるという結論に至った。そこで昨年度、

その調査方法や調査票の検討を進めたところ、幸い今年度は調査のための追加予算が認められた。今回の調査対象は特定歴史公文書等のみではあるが、所蔵分全体について資料1点ごとに素材や劣化度などの詳細なデータを取っているところである。今後は、この調査データをもとに計画的に修復・複製作成に取り組めると期待している。

5. おわりに

当館予算規模では、修復は1年に1、2点が、デジタル化は2万コマ程度が、通常予算では精一杯である。そうしたなか、本学の理事のおひとりから東大基金を通じて寄附をいただき、そのすべてを資料の保存・修復措置に充てさせていただいた。それによりまとまった修復や保存環境整備を進めることができたことは言うまでもないが、館として計画的な取り組みへの意識改革の契機となったことの意義は大きい。今後は、いっそう資料の活用が進むよう計画的に整備に取り組んでいきたい。

- 1 当該資料群については、小根山美鈴「資料紹介：東京大学文書館所蔵『農学部前身組織関係資料（S0026）』」（『東京大学文書館紀要』第34号、2015年）を参照。
- 2 補修の詳細は、花谷敦子「『農学部前身組織関係資料群（S0026）』への保存修復処置について」（『東京大学文書館ニュース』第68号、2021年）を参照。図1の写真も同氏による撮影・提供。
- 3 図2および図3の写真は、いずれも白井啓太氏による撮影。

業務日誌(抄)

(2023年8月～2024年1月)

※(本): 於本郷本館、(柏): 於柏分館

- 8/2 専門会社による移管文書資料カビ除去等のクリーニング(～8/3)
- 8/7 総合図書館より図書館竣工記念品(インク壺、灰皿)移管
- 8/9 森本、埼玉県次期文書管理システム構築業務委託の調達に係る総合評価委員会(第2回)出席(オンライン)
- 8/10 森本、星野、国立公文書館見学対応(本)
秋山、日仏学生フォーラム見学対応(柏)
書庫166室ダンゴムシ大量発生(柏)
- 8/17 SB06室エアコン清掃(書庫整備)(本)
- 8/21 森本、国立公文書館研修I出講
元、小澤、OmekaS改修作業打ち合わせ(オンライン)
- 8/22 第102回館員打ち合わせ(柏)
森本、元、小澤、千代田、DA 将来構想案検討打合せ(オンライン)
- 8/23 森本、元、秋山、小澤、逢坂裕紀子氏(GLOCOM)と教員人名DB打合せ(オンライン)
- 8/24 環境整備チームによる書架清掃(柏)
- 8/28 元、科研費関係外国出張(～9/4)
総合研究棟1階部ダンゴムシ対策用薬剤散布開始(柏)
- 8/29 秋山、百五十年史研究会参加(オンライン)
- 8/30 森本、秋山、星野、井上、村上、歴史資料部門打合せ(オンライン)
長野宏一郎様より資料寄贈(F0025 史料室アルバム)
- 8/31 書庫防虫のためのエヤローチ散布(本)
- 9/5 照沼康孝様より資料寄贈(F0226 神前燦関係資料)
- 9/11 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
- 9/12 森本、文書・図書・モノのリスト化検討WG出席(オンライン)
- 9/14 産業医巡視(柏)
元、研究調査外国出張(～9/17)
専門会社による秋の昆虫調査(トラップ設置)(柏)
- 9/20 森本、元、秋山、千代田、小澤、逢坂裕紀子氏(GLOCOM)と教員人名DB打合せ(オンライン)
- 9/21 森本、秋山、星野、井上、村上、歴史資料部門打合せ(オンライン)
- 9/27 第103回館員打ち合わせ(本)
- 9/29 書庫防虫のためのエヤローチ散布(本)
空調修理(柏)
- 10/4 森本、秋山、元、武田財団Webページのアーカイビングについて打合せ(オンライン)
- 10/5 森本、自然科学系アーカイブズ研究会出席(極地研)防災訓練(柏)
- 10/6 環境整備チームによる排水作業終了(除湿機稼働は継続)(柏)
- 10/11 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
- 10/12 森本、秋山、経済学部資料視察(経済学部100年史編纂資料)
- 10/13 森本、戸田市歴史公文書検討委員会出席(戸田市役所)防災訓練(本)
専門会社による昆虫調査(9/14設置分トラップ回収)(柏)
- 10/18 森本、元、秋山、千代田、小澤、逢坂裕紀子氏(GLOCOM)と教員人名DB打合せ(オンライン)
SB06室既存の換気設備撤去、簡易換気設備設置(書庫整備)(本)
書庫609、620除く除湿機停止。620にてサーキュレータ試験運転。湿度だまり解消されるか実験(柏)
- 10/19 専門会社による、昆虫調査のためのトラップ設置(柏)
森本、NAJアーカイブズ研修Ⅲ出講
- 10/20 森本、世田谷区公文書管理委員会出席(オンライン)
- 10/21 「東京大学ホームカミングデイ」出展(本)
- 10/24 小澤、科研関係出張(～10/30)
第104回館員打ち合わせ(柏)
- 10/25 森本、科研関係打合せ(オンライン)(一橋大有賀・高エネ研高岩両氏、zoom)
書庫SB06室壁防かび塗装(本)
- 10/26 SB06室専門会社による床清掃(書庫整備)(本)
- 10/27 柏一般公開出展(～10/28)
森本、内閣府公文書管理委員会出席
森本、ビジネス・アーキビスト研修講座講義(小島ホール)
SB06室除湿機設置・起動(60%設定)(本)
- 10/31 公益財団法人がん研究会がん研究所様より資料寄贈(F0027 長興又郎関係資料)
特定歴史公文書等の劣化調査(外部委託)開始(2024/2/29終了予定)(本・柏)
書庫防虫のためのエヤローチ散布(本)
全書庫空調OFF(柏)
- 11/1 元、総合研究棟建物管理専門委員会陪席(オンライン)
森本、秋山、星野、井上、村上、歴史資料部門打合せ(オンライン)
安井大輔様より資料寄贈(F0025 史料室アルバム)
- 11/6 書庫S110空調OFF(本)
- 11/7 SB06室書架設置(書庫整備)(本)
- 11/8 総長パトロール(柏)
書庫SC105空調OFF(本)
- 11/9 書庫SB06室空調OFF(本)
- 11/10 森本、文化資源学講義
小澤、元、デジタルアーカイブ学会第8回研究大会発表・参加(金沢)(～11/11)
森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席(オンライン)
- 11/13 フランス国立文書学校(École des Chartes)学生の研修受入(～11/17)(本・柏)
- 11/20 森本、追分寮資料確認(奨学厚生課)
島博子様より資料寄贈(F0304 島成郎関係資料)
- 11/21 森本、東京都公文書管理委員会出席
森本、元、秋山、千代田、小澤、逢坂裕紀子氏(GLOCOM)と教員人名DB打合せ(オンライン)
- 11/27 空調・全熱交換器フィルター清掃(～11/28)(柏)
相田仁様より資料寄贈(F0303 相田實関係資料)
- 11/28 第105回館員打ち合わせ(本)
森本、元、千代田、小澤、DA 将来構想案検討打合せ(本)
- 11/30 森本、元、全史料協大会参加(～12/1)(駒沢大学)
書庫防虫のためのエヤローチ散布(本)

- | | |
|---|---|
| <p>12/7 森本、秋山、星野、井上、村上、歴史資料部門打合せ（オンライン）</p> <p>12/8 森本、世田谷区公文書管理委員会出席（オンライン）</p> <p>12/11 森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席（オンライン）加湿器稼働開始（柏）</p> <p>12/13 森本、元、小澤、千代田、星野、井上、第7回 東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー参加（オンライン）
秋山、東大闘争資料収集委員会シンポジウム参加（オンライン）
令和5年度監査対応</p> <p>12/14 森本、秋山、星野、井上、村上、歴史資料部門打合せ（オンライン）</p> <p>12/18 書庫 SC105 室遮光工事（本）</p> <p>12/21 令和5年度第2回文書館運営委員会（オンライン）
森本、元、千代田、小澤、逢坂裕紀子氏（GLOCOM）と教員人名 DB 打合せ（オンライン）</p> <p>12/22 森本、杉本史子先生（史料編纂所）、茅根創先生（理学系研究科）、栗栖晋二氏（理学系研究科）文書館見学対応</p> | <p>12/26 第106回館員打ち合わせ（柏）
森本、元、小澤、千代田、DA 将来構想案検討打合せ（柏）</p> <p>12/27 書庫防虫のためのエヤローチ散布（本）</p> <p>1/10 全館員、合同研究倫理セミナー受講（オンライン）</p> <p>1/12 森本、世田谷区公文書管理委員会出席（オンライン）
森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席（オンライン）</p> <p>1/16 森本、元、秋山、千代田、小澤、逢坂裕紀子氏（GLOCOM）と教員人名 DB 打合せ（オンライン）</p> <p>1/17 整理済み資料移送（本→柏）</p> <p>1/19 森本、法人文書管理説明会出講（本）</p> <p>1/23 森本、内閣府公文書管理委員会出席（オンライン）</p> <p>1/25 医学部1号館 LED 化工事（本）（～1/26、当館事務室・閲覧室・書庫含む）</p> <p>1/30 第107回館員打ち合わせ（本）
森本、元、小澤、千代田、DA 将来構想案検討打合せ（柏）
山田由香様より資料寄贈（F0306 守田亀関係資料（仮称））</p> <p>1/31 産業医巡視（本）
書庫防虫のためのエヤローチ散布（本）</p> |
|---|---|

資料の公開について

（2023年8月1日～2024年1月31日）

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等は、以下のとおりです。

※概要記述とアイテムリスト（目録）、既存資料群へのアイテム追加は、
当館のデジタルアーカイブからご確認いただけます（<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>）。

特定歴史公文書等

事務

- S0457 国際センター駒場オフィス運営
S0743 学務システムクラウド移行
S0744 学部教育の総合的改革推進
S0745 共同利用・共同研究拠点実施計画書・実施状況報告書
S0747 大規模フロンティア促進事業概算要求
S0748 総長パトロール
S0751 情報セキュリティ教育
S0752 情報基盤センター 教員会議

大学院・学部

- S0742 附属病院 病院機能評価委員会
S0746 史料編纂所 教授会
S0753 工学系研究科 企画委員会
S0769 総合文化研究科 有機溶剤・特定化学物質・特定有害物質調査表データ

全学センター

- S0752 情報基盤センター 教員会議

機構等

- S0749 文書館 書庫内データロガー計測記録
S0750 特定歴史公文書等の保存及び利用状況報告

歴史資料等

総長資料

- F0120 内田祥三撮影アルバム

教員資料

- F0044 高木八尺関係資料
F0125 宇野哲人関係資料
F0237 石本巳四雄関係資料
F0290 獣医生理学教室旧蔵資料

職員資料

- F0169 安藤和夫関係資料
F0251 平野浩之関係資料

学生資料

- F0135 坂丈夫関係資料
F0276 芝崎謙平関係資料
F0296 伊藤新作関係資料
F0297 中野敬夫関係資料
F0303 相田實関係資料

その他

- F0301 戸井田盛蔵関係資料

今期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、東京大学に関する資料・学内刊行物のご寄贈をお待ちしています。

文 書 館 ト ピ ッ ク ス

総長安全衛生パトロール（柏分館）

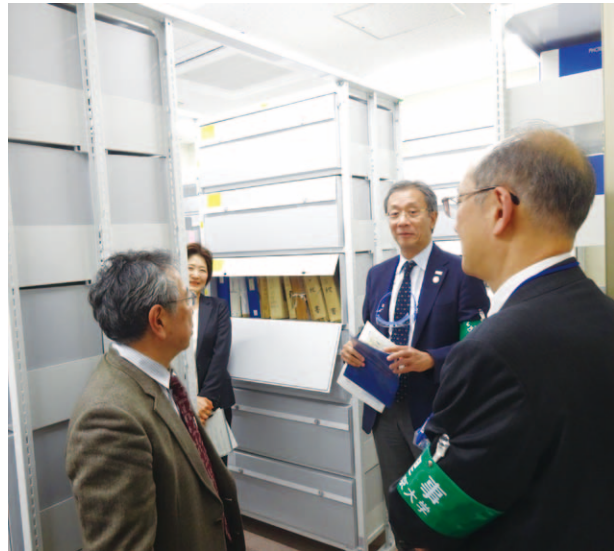
東京大学では、2006（平成18）年度から、毎年、総長安全衛生パトロールが実施されている。これは、総長が大学における環境安全衛生の総括者として自ら安全衛生に対する姿勢を示し、全学の安全衛生意識を高めることを目的として行う、というものである。当館の柏分館は、今年初めてその対象となった。

今年の柏キャンパスの安全衛生パトロールは2023（令和5）年11月8日に実施された。総長とともに環境安全衛生担当理事、環境安全本部長、産業医を始めとする方々がパトロールされ、文書館では安全衛生の趣旨に鑑み、収蔵庫の一室を視察いただくこととした。

視察の際には、まず総長から、所蔵資料が紙なので火災が心配だが大丈夫か、との質問があった。それに対しては、文書館収蔵庫はスプリンクラー設置対象室になっていないと施設部からの回答があったものの、文書館ではそれを補うため二酸化炭素消火器を配置していることを回答した。なお、収蔵庫には火の気のないことも付言した。また地震対策として、書架は天つなぎや床固定といった工事を施してあること、揺れを感知すると書架が背に向けて斜めに傾斜して資料の飛び出しを防ぐ作りになっていること、資料を箱に収納したうえで配架することで資料の落下・散乱防止にもなっていることを伝えたところ、講評の際に理事から、こうした地震対策が印象的であるとの言及をいただいた。

また、安全衛生の観点ではないものの、文書館にはもっとスペースが必要だと感じたということが講評の際に言及されたことは、視察の副次的効果といえる。無論、それですぐにスペースを増やしてもらえるわけではない。しかし、文書館収蔵庫に明治以来の唯一無二の文書が保存されていること、収蔵庫にはめいばいの書架が設置されていること、そしてそれでもなお収蔵スペースがすでに限りなく満杯であることを実際に見ていただけたことは、おそらく百の言葉で説明するよりも、文書館について理解いただく上で大きな意味があったのではないかと感じた。今回のパトロールを通じて、館として館内の安全衛生対策について改めて気を引き締めるとともに、文書館理解を広めるためにはさまざまな機会を活かすことが有効であることを改めて感じた。

（森本 祥子）



柏分館 659 室視察の様子

東京大学文書館ニュース 第72号

ISSN 0915-3284

発行日：2024年3月31日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03(5841)2077（直）

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>



印刷所：松枝印刷株式会社